

森林塾青水 在宅講座 VOⅠ.1

サクラはどこから来たのか

日本のサクラとヒマラヤザクラ

2020.4.28

森林塾青水 事務局長・下流域部会長 草野 洋



オオシマザクラの白い大きな花

プロローグ

(1) サクラへの想い

桜の季節の到来を毎年たのしみにしていて、これまで、河津さくら、三春の滝桜、角館武家屋敷のシダレザクラ、弘前城のソメイヨシノなど各地のサクラの名所を訪ねました。昨年、4月にネパールから来た友人を案内したと時に見た会津若松城と湯野上温泉、大内宿の桜は「これまでの人生で一番美しい桜」と感動してから1年が経ちました。



会津鶴ヶ城の桜 と湯野上温泉駅の桜と列車

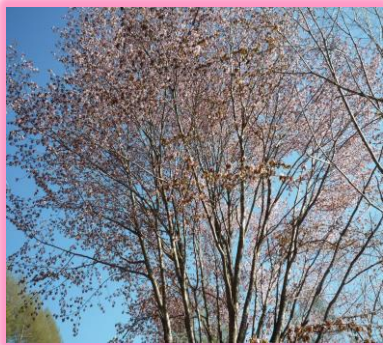
今年は、2月に日本のサクラの先祖であろうヒマラヤザクラを見るべく友人4人とネパール訪問を計画していました。ところが中国を発生源とする新型コロナウイルスの感染が世界中に広がったため山ノ神の「離婚覚悟で行くならいいよ」とのご宣託に断念せざるを得ませんでした。

そんな中、例年より10日ほど早い3月14日に東京で開花宣言、外出自粛要請が出され花は咲けども花見のできない寂しい桜の季節を迎えました。そして、いつの間にかツバメが飛来し、葉桜、虫や鳥の助けを借りて受粉して生まれた新たな命のサクランボが黄色くなっています。



色づいたサクランボ 2020. 4. 26 撮影

上ノ原のオオヤマザクラは私の大好きなサクラです。野焼きの跡の末黒野でススキの芽が伸びる頃、光沢のある滑らかな樹肌の木の枝に、濃いピンクの花と葉緑素が発達していない淡い茶色の葉が混じり、いかにも野生種といった風貌を見せてくれます。今年はそれが観られないままに見頃が過ぎていくのがとても悔しい。



「にぎわい桜」と名付けた
上ノ原のオオヤマザクラ

(2) ネパールとサクラ

ネパールには過去2回、仕事で行ったことがあります。一度目は2012年4月、二度目は2014年1月、4月に行ったとき滞在していたカトマンズのホテルの庭で開花したサクラを見ました。たぶんソメイヨシノであろうと思いこんだのは、花の様子や日本の東京と変わらないカトマンズの気候、ホテルのオーナーが日系なので日本のサクラが植えられた可能性があったからです。しかし、ネパールには秋咲と春咲きの桜があり、それらが、日本のサクラの原種という学説があることを知らず、サクラは日本古来の樹木であるとの固定観念とサクラは愛でるための存在であり、樹木としてその生態を掘り下げる対象ではなかったからです。

ところが、昨年11月、ムスタン、ヒマヤラなどネパールに何度も訪問してトレッキングを楽しんでいる友人のOさんが現地から「これサクラだね」と樹木の写真を送ってきました。それは、葉や樹皮から見て紛うことなきサクラの種類です。生育場所はカトマンズ近郊ではあるが、庭園や公園がない耕作地帯、群生ではないがよく見かけるので、自生ではないかという。気候的には日本の桜も育つ気象条件なので都市部なら持ち込まれた可能性も高いが地方で、しかも何度も見られるとすればネパールにはサクラの種類が自生することになります。興味が湧いて調べてみると、日本のサクラのルーツを知る壮大でロマンあふれる「桜が来た道」を知ることとなりました。



Oさんがネパールから送ってきたサクラの写真 (2019. 11)

あれこれ調べるうち、自分の浅学を知らされる著書に出会いました。以下、大部分がこの著書 染郷正孝著 「桜の来た道 ―ネパールの桜と日本の桜―」 (2000 信山社) の受け売りですが、コロナ禍の巣ごもりで満足な花見が出来なかった皆さんのサクラに関する知識の一助になれば幸いです。

1 サクラと日本人

サクラは日本の春の風景になくてはならないほど風土に融け込み、日本人の心の中に生きている樹木です。日本人は桜を愛でるために野生種を改良して様々な品種を作り出し、至る所に桜の名所を造っているのも文化的にも、その技術や情熱の高さからも、私が思い込んでいたように日本古来の樹木とってしまうほどサクラと日本人は切っても切れない関係が出来上がっています。

2 日本のサクラの種類

日本にある野生種の桜の基本種は9種あるいは10種となっていました。列举するとヤマザクラ、オオヤマザクラ、オオシマザクラ、カスミザクラ、エドヒガン、マメザクラ、タカネザクラ、チョウジザクラ、ミヤマザクラ、カンヒザクラ、いずれも春咲きです。しかし、2018年3月、1915年のオオシマザクラの発見から100年ぶりに新種クマノザクラ（春咲）の発見が発表されました。まだ見つかっていないサクラの新種が日本の野山にあるかもしれません。クマノザクラの詳細は森林総合研究所のHPで見ることが出来ます。



クマノザクラの花姿、生育地、樹形（森林総合研究所のHPから）

🔍 森林総合研究所 クマノザクラ

<https://www.affrc.go.jp/press/2018/20180313/index.html>

この基本種の変種が100種以上そして品種改良された200種以上の桜が日本列島にあり春の里と野山を彩っています。

3 ネパールのサクラと日本の秋咲サクラ

ネパールの野生種のサクラはまだこの目で見ていませんが文献によれば、ネパールには秋10月に開花するヒマラヤザクラという野生種があります。Oさんが送ってくれた写真は11月に撮影されたもので開花していることからこのヒマラヤザクラだと思われます。

実は、日本にもヒマラヤザクラが静岡県熱海市に植栽されています。このサクラは、1967年、ピエンドラネパール元国王（当時は皇太子）から贈られた種子を育てたもので熱海高校などに植栽され、毎年11月頃に開花しています。このことを知って今年2月、カワズサクラを見に行く途中に、現地に行けない代わりにせめてその子孫をと熱海に寄りましたが見つけることができませんでした。今年の11月の花の時期に再訪したいと思っています



熱海のヒマラヤサクラと熱海高校近くの親木（熱海観光協会 HP より）

日本にもジュウガツザクラやフユザクラという品種があつて秋咲性です。これらは、なぜ、秋に咲くのか、よく言われるのが季節を勘違いした「狂い咲き」ですが、確かに春咲のサクラが冷夏や強風による落葉のあと咲くこともあります。品種として秋咲性が確立しているものは狂い咲きではなく、それらが形質として持っているものです。「先祖返り」つまり、もともと持っていたものがたまたま出現する、秋に咲く DNA を持っているフユザクラなどの存在は、先に上げた基本種から分化するうちに秋咲の形質が「先祖返り」した可能性が高い、目ざとく秋に咲くサクラを見つけた育種家達がそれを接ぎ木で保存、増殖して現在の秋咲サクラとして伝えたと考えられます。日本の秋咲サクラとヒマラヤザクラは、秋咲という点だけでなく花が散らないなどの共通点を持ち、日本のサクラとヒマラヤザクラの染色体は同数の安定した野生種であることがわかっています。両者は遺伝的に非常に近い関係にあると言えます。両種の交配実験でも結実率は30～50%と良好ということです。つまり、日本の秋咲サクラはヒマラヤザクラの「先祖返り」ということです。ちなみにヒマラヤザクラは花の

構造はもろいのに花ビラが散らない、枝が風に弱く折れやすい（風の強いところは生育に適さない）、花の密が多い（虫が少ない秋に咲く花のためか）などの特徴があるそうです。

4 ネパールにも秋咲と春咲のサクラがある。

サクラの来た道の著者 染郷正孝氏は、ネパールを5回ほど踏査されていて次のような報告をされています。ヒマラヤザクラは首都カトマンズ周辺標高1400～2000mに万年雪のヒマラヤの山々を背景に自生していて、この付近は、緯度は沖縄と同程度の亜熱帯に属し、1年を通じて気温差が少なく、5m以上の風ない穏やかな気候、いわば温室のような気象条件の中で育っている。そして、標高3000～4000m付近の雪も降り気温も零下にまで下がる地帯には、春咲きになったサクラ種のヒマラヤヒザクラやヒマラヤタカネザクラなど数種があり、その付近の年平均気温は1℃、カトマンズの20℃との気温差が春咲のサクラに変えた要因と考えられました。

5 ネパールから日本列島へ移動 そして春咲に

サクラの種はネパールを基点として、秋咲のヒマラヤザクラから春咲きのヒマラヤヒザクラなどがミャンマーの奥地、中国の雲南、そして台湾、沖縄及び中国東シナ海沿岸には春咲のカンヒザクラが、韓国、日本列島にはヤマザクラなどが分布しています。

春咲のサクラは、秋咲のヒマラヤザクラが生育範囲を広げるときに冬の厳しい寒さや乾燥に耐えるため一時、葉を落として生育活動を止める「休眠」という手段を獲得した結果、春に咲く種として分化して行ったと推測されます。この休眠現象はネパールの標高の高いところでもみられることからこの推測が裏付けられます。ということは数千万年前、8000m級の山々が出来たヒマラヤ山脈の造山活動、また、日本列島と大陸が地続きであったころからネパールのサクラは旅立ち、長い進化の道のりを経て日本列島に到達し、そして、大陸を離れ、南北に細長い日本列島の四季のはっきりした風土に適応するようにヤマザクラなど日本特有の9～10種の野生のサクラの基本種に分化したということのようです。

6 春咲サクラに変わる理由

もともと秋咲だったサクラが日本列島の気候に適応して生育するために春咲になった理由は気候の違いにあります。秋咲サクラの野生種があるネパールの緯度は亜熱帯に属し、標高は1400～2000mほど、年間を通じて気温差が少なく、穏やかな気候です。これに対して日本は四季がはっきりして年間の気温差が大きく、ネパールに比べると非常に厳しい条件下にあります。温室のような気候で育ったネパールの秋咲きサクラは、中国、台湾、日本へと北

上していく過程で、厳しい気象条件を克服するため、冬場に葉を落として活動を休止する「休眠」という手段を得て、暖かくなった春に花を咲かせるようになったと考えられています。つまり、遙か昔のサクラは秋咲で、厳しい環境へ移動していく中で生き残るために春咲になったようです。

これから春爛漫に咲き誇るサクラを観るとき、その背景にヒマ（雪）のラヤ（住みか）に想いを馳せることになりそうです。

7 サクラは今も進化を続けている。

日本列島では野生基本種をもとに250種以上の品種が作られています。これら同志は自然交配で種子ができます。この種子が生育したサクラは両親と似ていても違うものです。日本のサクラはネパールのヒマラヤサクラが数千万年の時を経て日本の気候に適応する為に進化し続けている姿なのです。

ソメイヨシノはクローン、つまり、同じ個体なので自家不和合性（同じ個体同士では受精しない）が強い品種であり、結実しても種子が発芽に至ることはありません。ソメイヨシノ以外のサクラとの交配は可能であり、不稔性（実をつけないこと）ではないので実をつけ発芽することもあります。ソメイヨシノに実がなっているのを時々見かけますがそれはソメイヨシノ以外のサクラと交雑したもので別の品種になっています。つまり、新しいサクラが生まれている。進化・分化しているのです。余談ですがイヨシノは日本固有のエドヒガンと伊豆諸島に固有分布するオオシマザクラとの交雑により誕生したことが遺伝子解析の結果で確定していますので、韓国で主張されている韓国の固有種「王桜」がソメイヨシノの起源であるという「ソメイヨシノ韓国起源説」は成立しません。

エピローグ ヒマラヤザクラに会える日はいつか

コロナ禍で、念願のヒマラヤザクラとの逢瀬もままならず、楽しみにしていた桜の名所を訪れることもできない我慢の毎日です。コロナは人類と社会の知恵と技術と自然の力でいずれ収束させる、終息する。それまで心身共に健やかに山ノ神を敬（寵）愛して過ごし、秋のヒマラヤザクラやその子孫の春咲のサクラたちと春爛漫を喜び合うことが来ると信じて待ちます。

とりあえずはこの11月に再び熱海を訪れて日本で生きているヒマラヤザクラに逢いに行くことにします。そして、クマノザクラも観たくなりました。

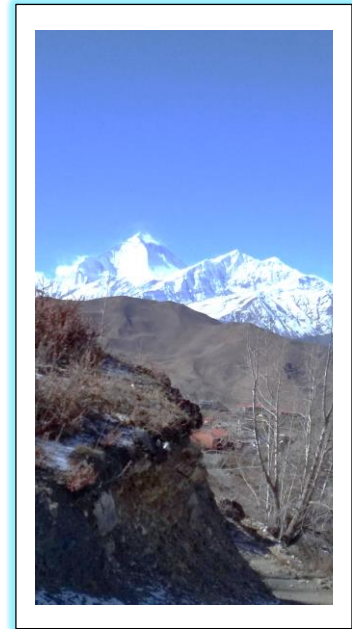
引用文献：

著書 染郷正孝著 「桜の来た道 ―ネパールの桜と日本の桜―」（2000 信山社）伝熱
2006年4月号 特別寄稿 サクラの来た道 染郷正孝
東京農業大学ホームページ WEB ページ 知的好奇心へのアドベンチャー V01.5

「この花 その花 あの花」

ヒマラヤザクラを想って・・・

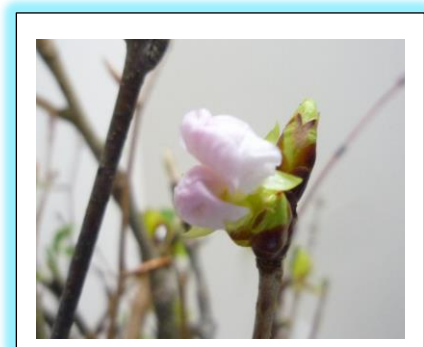
この花は 遥かな西の 雪の住みかから
幾千万年を経て やってきた
繋いだ命は 春爛漫の立役者
厳しく辛い時を 越えれば 花が観られる
穏やかな こころと くらしが^{かえ}還ってくる



その花は ^{ね ゆ き}万年雪の^{やまなみ}山脈 秋空を背に
タルチョの 祈りに 色香を添える
厳しく辛い時を 越えれば 祈りが届き
穏やかな こころと くらしが還ってくる



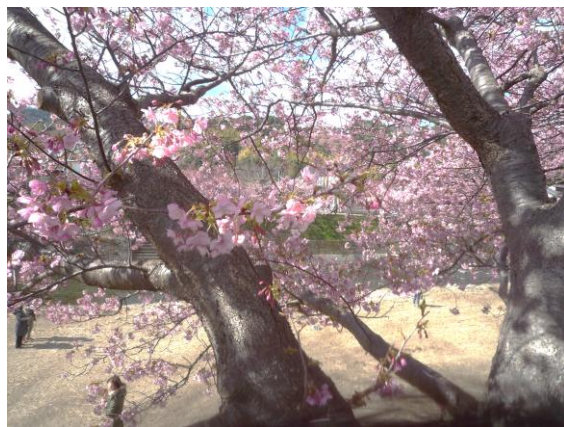
あの花は 己の知恵で 道を得て
^{とわ}永遠の世に 命を繋ぎ 歓びもたらす
厳しく辛い時を 越えれば ^{あした}明日が見える
穏やかな こころと くらしが還ってくる



この花 その花 あの花 のように
くじけないで 負けないで 立ちあがる
芽を出し 育ち 花を 咲かせてみせる
きっと きっと きっと・・・

番外

ヒマラヤザクラの子孫たち



カワズザクラ



弘前城のソメイヨシノ



三春の滝桜